

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

令和1年6月9日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	大西 絵奈

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
日本、幸島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
幸島実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
令和1年 5月 7日 ~ 令和1年 5月 17日
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学野生動物研究センター、杉浦秀樹准教授/技術職員、鈴木崇文氏
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の幸島実習では、外国人留学生を含む9人の学生と3人の教員が参加し、幸島のステーションで1週間の実習を行った。大まかなスケジュールは下記の通りである： 1日目：幸島のステーションに到着 2日目：都井岬でウマの観察 3日目：幸島へ移動 4日目：幸島にてフィールドワーク 5日目：幸島にてフィールドワーク 6日目：発表 7日目：宮崎出発 2日目は都井岬を訪問し、野生のウマの観察を行った。今までウマの観察の経験がなく、また乗馬用のウマしか見る機会がなかったので、ウマ同士の社会交渉を見る機会はあまりなかった。しかし都井岬では社会行動がよく観察され、非常に興味深くあった。 雨であったが3日目には幸島へ渡ることにし、雨の中のキャンプを経験した。大変であったが、非常に学ぶことの多い体験であった。実習では、ニホンザルの雌雄それぞれのアルファ個体を対象とした研究を行った。両個体は姉弟であり、雄が群れを出るニホンザルの社会では同集団で姉弟共にアルファ個体となることは稀である。 ニホンザルの観察は初めてではなかったが、今回の実習で多くのスキルや知識を獲得できたように思う。今後の研究ではコンゴ民主共和国の野生ボノボの観察を予定しているため、直接観察やビデオ撮影はとても良い練習になった。特に、双眼鏡やビデオカメラに慣れることは動物の研究、特に野生動物においては不可欠であると実感した。また、サルを追跡しながら山を登った際に鈴木さんにフィールドワークについて教えていただいた。その中でも心に残っているのは、50%の力で山を登り、残りの50%で観察を行うということだ。 動物達だけでなく、同期と過ごした時間も実習の素晴らしく、有意義な時間であった。皆で協力して基地を作り、食事の準備をした。一緒に釣りや料理をしたり、星空を眺めたり、歌を歌ったりした体験はとても楽しかった。この実習はお互いのことを知り、仲良くなるとても良い機会であった。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



都井岬での野生馬達。黄色い花はウマノアシガタというらしく、ウマは食べない。



実習中はみんなで協力してテントの設営やご飯の準備を行う。



ニホンザルを追跡していた際の写真。山に入ると見つけにくくなるのがよくわかる。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS リーディング大学院プログラムの支援を受けて実施されました。研修中終始暖かく見守って下さった杉浦秀樹准教授、鈴木崇文氏に深く感謝いたします。